

○人権旬間を終えて 10月25日(月)～11月5日(金)

主題「いのち 互いを認め、大切にしよう」

約2週間、自分や周囲の人への理解を深め、かけがえのない個人を大切にし、認め合い、共に生きていこうとする態度を培い、人権尊重の重要性について自覚し、様々な人たちの繋がりを大切にし、豊かに生きようとする心情を育てることを目的に様々な活動に取り組みました。そして、最終日11月5日(金)の人権フェスティバルで締めくくりました。

1 全校人権弁論大会 (各学年代表1名)

新型コロナウイルス感染予防対策のためリモートで行いました。各学年の代表3名が実体験に基づいた人権弁論を発表してくれました。

<弁論の一部抜粋>

- ・障がい者だからといった勝手なイメージを払しょくした世界はとても美しかった。その美しい世界を私はいろいろな人に見てほしい。自分勝手なイメージの押し付けは、障がいを持つ方の妨げとなるだけだ。「干渉」ではなく「手助け」をする、そんな風に一步下がるだけで見える世界の美しさを、尊さを私はたくさんの人に伝えたい。」
- ・私とみんなの普通は違う。それは人それぞれ感じ方が違うだけだ。私の普通、みんなの普通、みんな違ってそれでいい。普通というのは十人十色なんだなと思いました。障がい者は不思議だ、変わっているとかじゃなく、みんなと同じひとりの人間だ。私はそう思いました。」
- ・以前の自分を恥ずかしいと思った。もっと聴覚障がいのこと、手話のことをもっと知ってもらって広めていきたい。かわいそうって思うだけじゃなくって、興味を持って話を聞いてほしい。そのために自分は何ができるのか。手話サークルにもう一度行ってみようと思った。感謝を伝えるありがとうは、自分も相手もうれしくなる言葉です。目が見える、耳が聞こえる、当たり前のことにも感謝していきたいです。」



2 生徒会発表

映像教材「多様な性ってなんだろう？」を見て、各クラスでLGBTについて理解を深めました。そして最後に、生徒会役員から全校生にメッセージを伝えました。

- ・好きなものや外見は自由であること、性別と「どうあらねばならないか」は関係がない。
- ・見た目にわかりづらい「ちがい」もあるからこそ、想像力を働かせる必要がある。
- ・「ちがい」を尊重するために「ちがい」を理解する必要がある。

